

2024年度「メディア・リテラシー演習B」に参加した学生の感想

●この番組を通して、集めてきたデータの中から特に伝えたいところ、伝えるべきところを選択する力が養われたと思います。初めは18分間の番組はとても長いと思っていましたが、いざインタビューを終えて番組の編集に取りかかると、あれもこれも使いたくなってしまい、時間が足りないということがとても多くありました。録音番組の制作では、「自分は何を伝えなかったのか」「伝えたいことを一番効果的に表現できる方法は何か」を考える練習ができたと思います。

●むさしのFMのスタジオにお邪魔させてもらえたことが、単純に嬉しかったです。もともとラジオが好きでこの授業を履修したので、スタジオに行って実際に使われている機材やラジオブースを見学させてもらえることなんて、普通に生活していたらなかなかできない体験だったと思うので、この授業ならではのことで、貴重な経験をすることができて嬉しかったです。それに、沢山の方にインタビューさせていただいたことも嬉しかったです。事前の準備が大変で、インタビュー当日も緊張しましたが、さまざまな大人の方にインタビューすることなんて、これもまたそうそうないことなので、終わった今となっては楽しい思い出だったなと思います。

●日本語を母国語として使っていますが、「日本語学」として真剣に向き合ったことがなかったの、生放送番組で森雄一学長から、専門のお話を沢山お聞きできたことが面白かったです。文学部を卒業した母親が、私が武蔵野に住むことになったときに、とても嬉しそうにしていたので、武蔵野が文学者に好まれる土地だということは何となく知っていたのですが、中央線文化として長い年月をかけて人とともに成長し、愛されてきた土地なのだと知り、ますます武蔵野に愛着が湧きました。



●授業の中で、アナウンサー演習が印象に残っています。アナウンサーの方から実際に指導していただいたことで、プロの目線で見ると「喋り」を感じることができて面白かったです。アナウンサーの方の「後の世代に繋いでいくために正しい言葉遣いを知ることが大切である」というお話が印象に残っています。

●座学とは違い、自分で動いて情報を集めて成果物を作るという授業の形式がとても面白かったです。むさしのFMさんのスタジオを見せていただいたり、成蹊学園資料館を見学させていただいたり、プロのアナウンサーさんからご指導いただいたり、様々な貴重な経験ができ、すごく良かったです。またこういう授業に参加したいと思いました。

●チームワークの一番の面白さは一人一人の特技を活かすことができる点だと思いました。たとえば、私は発表やプレゼンは得意だと自負していますが、発表資料を作ったり原稿を書いたりすることがすごく苦手です。今回は作家を担当してくれた方が、私が思いつきで口にした、まとまっていない文章を綺麗に整えて台本にしてくださいました。おかげで一人で取り組むよりもよい作品を作ることができたと思います。

●ラジオ制作をして楽しかった点は、履修生の皆さんと編集したことです。インタビュー音声が集まって、番組に入れ込みたいことがたくさんあるなか、どの音声を選ぶかを皆さんと考えたことはとても楽しかったできごとでした。達成感を持ったのは、ラジオ番組を放送し、よかったよと周囲から褒められたときです。実際にむさしのFMで放送されたのを聞いて、やり切ったなと思いました。また、家族や友人からよかったよと褒められたときに達成感を感じました。

●大学に入って他学年の人と交流する機会がサークル以外でなく、ましてや授業でなんて今まで一度もなかったのも、先輩たちと一緒に授業を受けて沢山関わることができたのは、とても良い経験になって良かったです。



●この授業を通じて自分は、チームワークの大切さとコミュニケーションの取り方を学んだと思います。班員と一緒に協力して、各々が役割分担しながらも、助け合えるところはお互いが助け合っていて、ラジオ番組を一から制作していったことで、チームワークの大変さや大事さを再認識することができました。また、班員と協力したり、たくさんの方にインタビューしたりしたなかで、物事を円滑にするためのコミュニケーションの取り方、インタビューのときの相槌の仕方、視線の向け方、質問の仕方などを含めたコミュニケーションの取り方を身に付けることができました。



●最も大きく意識が変わったのは、成蹊学園の生みの親である中村春二先生についてです。恥ずかしながら私は今まで春二先生のことをよくわからずに成蹊大学に通っていました。しかし、今回成蹊学園の吉祥寺移転100周年にちなんで成蹊学園資料館などで春二先生の考えについて学ぶことで、改めてこの学校で学べることの有り難さを実感し、励みになりました。また、生放送番組で森雄一学長から、ラジオ放送の開始からもおおよそ100年たつこと、ラジオによって標準語が全国に普及したことを聞いて興味深かったです。私は地方出身者なのですが、東京に来て当たり前のように関東出身の学生と会話ができています。方言による言語の壁が生じずにすんでいること、そもそも生まれ育った場所以外の大学で学べることは100年という時間の流れの中で社会が発達していったおかげなのだなと感じました。



2024年度「メディア・リテラシー演習B」に参加した学生から 皆さんへのメッセージ

●自分たちでラジオ番組を作ってみたり、実際のむさしのFMのスタジオにお邪魔したりするなど、この授業でしかできない経験をとおして、ラジオというメディアに関して考えが大きく変化し、座学だけでは得ることのできない学びをたくさん得ることができました。最初は「珍しい授業があるな」という好奇心で参加を決めたのですが、授業を終えて振り返った今、この授業に参加してよかったと思っています。

●結論からお話しますと、メディア・リテラシー演習の概要を見て少しでも興味をもった方は、絶対に参加したほうがよいと自信をもって言えます。この授業は一方的に講義を聞くのではなく、自分の目で、自分の足で学んでいく実践型の授業です。実践型というとなんか一人ひとりの負担が重そうに聞こえてしまうかもしれませんが、頑張れば頑張るほどラジオ番組を作り上げたときの達成感は大きいと思います。また、むさしのFMのスタジオの見学ができたり、プロのアナウンサーさんの指導が受けられたりするなど、普通はなかなかできないような体験を授業内ですることができます。大学の授業を楽しみたい方にはとてもおすすめできる授業です。

●ラジオ番組制作の裏側だけではなく、ラジオがもつ地域とのかかわり、人との繋がりまで学ぶことができます！ 他の授業ではできません！

●この授業では、普通の大学生活では得られないさまざまな経験を得ることができます。むさしのFMのスタジオを見学させてもらったり、いろいろな方にインタビューをしてお話を聞いたり、他学年の人たちと協力し合ったり、パソコンで音声の編集作業をしてみたりするなど、この授業でしかできない体験がたくさん待っています。授業内はもちろん、授業外の準備や活動が多いのですが、そのぶんラジオ番組完成の瞬間や放送時の達成感は大きなものがあります。少しでも興味があれば、ぜひ参加してみてください。

●メディア・リテラシー演習では、「制作者の視点」や「人との繋がり」を得られます。実際に履修生とテーマをじっくり考えたり、取材をしたり、グループで音声の編集や原稿の作成をしたりするなど、貴重な体験をすることができます。リスナー側では見えない現実を多く知ることができるはずです。また、取材で多くの方と繋がりができ、さまざまなことを知るでしょう。授業外で集まって作業することも多く、大変だと感じる部分もあると思いますが、ラジオ番組が完成し放送できたときには、達成感とともに周囲への感謝を強く感じるはずです。履修してよかったと思える授業なので、成蹊大学に入った場合は、ぜひ履修を検討してみてください。

